

結核の集団感染事例の発生について

1 概要

平成 30 年 12 月 17 日、新潟市保健所へ 40 代男性の結核患者の届出がありました。この患者は 11 月中旬頃より咳や痰などの症状が強くなり、医療機関を受診したところ肺結核と診断されたものです。

この患者の発生届を受け、家族及び職場関係者の接触者健康診断を新潟県・新潟市で実施しました。その結果、「結核集団感染事例」に該当すると判断し、本日、国に報告しました。

【結核集団感染事例の定義】

平成 19 年 3 月 29 日付厚生労働省健康局結核感染症課長通知（一部改正）

同一の感染源が、2 家族以上にまたがり、20 人以上に結核を感染させた場合をいい、発病者 1 人を 6 人の感染者に相当するとして感染者数を計算するものとする。

※初発患者はこの計算式には含まれません。

2 接触者健康診断の状況

家族および職場関係者計 85 名を対象に、これまで接触者健康診断を実施しました。その結果、結核を発病した方は 3 名、結核に感染した方は 16 名でした。

発病した方は、検査で咳や痰の中に結核菌は確認されておらず、他の人へ感染させる可能性は低いです。

3 対応状況

- (1) 初発患者は、結核専門病院で入院治療を実施し、現在は通院治療中です。
- (2) 接触者健康診断によって判明した発病者や感染者は治療を開始しています。
- (3) 感染拡大防止のため、接触者健康診断を職場関係者を中心に継続しています。
- (4) 発病者、感染者に対して、結核が治癒するまで支援を継続していくとともに、関係機関に周知啓発を図っていきます。

<お願い>

今回の情報提供は、結核に関する啓発を目的に実施しています。報道機関各位におかれましては、感染症法の精神に基づき、感染症及び患者家族等について本人が特定されることがないように、人権に格段のご配慮をお願いいたします。また、過度に不安を与えることのないようご配慮をお願いします。

<参考>

○結核とは

結核菌は、感染した人が咳(せき)をする際に出すしぶきや痰が菌を含んだ飛沫核(ひまつかく)となって、それを吸い込むことで感染し、身体の抵抗力(免疫)が弱い時などに、菌が増えて発病する慢性感染症です。

感染の危険性は患者さんの排菌量、患者さんとの接触の濃さ、接触した人の抵抗力の強さによって決まります。そのため、接触した全員が結核に感染するということではありません。

○結核の症状

痰、血痰、微熱、胸痛、体重減少、倦怠感など症状が「よくなったりわるくなったり」しながら症状が進行します。

結核は、風邪と非常に症状が似ているため、気づかないで病状を悪化させてしまい、他人に感染させてしまったり、手遅れになったりすることが少なくありません。

○結核は過去の病気と思っていませんか？

80歳以上の方は、結核を発症する危険性が、その他の年齢に比べて、約5倍高くなります。

若いころに結核に感染した人の多くが、高齢を迎え、発病しやすくなっていること、結核菌に免疫のない若い世代が感染しやすくなっていること、感染者の多い国からの移住者の増加などから、全国で16,789人(平成29年)が、新しく登録されています。

高齢者は咳や痰などの呼吸器症状が出にくいいため、発熱や倦怠感などの全身症状の注意深い観察が必要です。日頃から健康状態をチェックし、結核の早期発見につなげることが大切です。

○日頃の予防対策

- ・年1回の胸部レントゲン検査 加えて、症状が長引くときにも受けましょう。
- ・免疫力の維持(栄養・運動・睡眠・禁煙)
- ・咳エチケット(マスクの着用)
- ・こまめな換気

65歳以上の方は、年1回の結核検診(胸部レントゲン検査)が法律で義務付けられています。

結核は、正しい服薬でほとんどの人が治ります。しかし、重症になって肺が壊れてしまうと、肺の機能は戻りません。早く気付いてきちんと治しましょう！！

<結核の発生状況>

	H27年	H28年	H29年
全国	18,280	17,625	16,789
新潟県	232	216	190
新潟市	86	79	77

※1 全国、新潟県は、新潟市分を含む。